

認知症BPSD対応研修

BPSD出現時の適切な対応を考えよう

事例4 入浴拒否

【この教材のねらい】

今回配信する教材は、認知症ケア場面の事例を使い、さまざまな視点からBPSD(行動・心理症状)への対応について理解を深めていくものである。

事例の限られた情報から、どのような原因が考えられるか、どのような対応方法が考えられるかを共有し、今後の認知症ケアのヒントとして活用していただきたい。

【事例4】

Dさん、80代、男性、デイサービス利用。
アルツハイマー型認知症

妻と2人暮らし。近年、認知症の症状が進行し、妻は精神的に疲れ果てている状態。自宅入浴は困難であるため、妻は「デイに行った時くらいはお風呂に入って全身洗ってきて欲しい」と訴えるが、デイサービスでは初回利用時に一度入浴した後は毎回入浴を拒否し続けている。

【事例4(続き)】

本人は「風呂なんか入らなくていい！それに今は風邪気味なんだよ！」と毎回同じ事を訴える。ある日職員は、入浴させてDさんの妻の気持ちに応えたい、Dさんにもさっぱりして欲しいという思いから、「Dさんは今風邪をひいていらっしやいませんから大丈夫ですよ！それにお風呂に入るとさっぱりしますから入りましょう！」と声をかけたが、Dさんはますます態度を硬化させ、何を言っても目を閉じたまま返答が無くなってしまった。

ワーク1

Dさんの入浴拒否の原因を探りましょう

認知症が及ぼす影響（中核症状）や
心理面・身体面・環境面の影響など、
考えられること・思いついたことを
あげてみましょう

ワーク2

この事例の職員の対応はどう感じますか？
問題と思う点をあげてください。

ワーク3

あなたならどう対応しますか？
適切な対応方法を考えてみましょう。

【この教材を終えるにあたって】

この研修には「正解」はありません。認知症ケアは、その人がどういう性格か、これまでどのような生活を送ってきたのか、何を望んでいるのか、などによって対応が異なるためです。

様々な対応方法を共有することで、その人に合った適切な対応ができるように「認知症ケアの引き出し」を増やしていきましょう。

お疲れ様でした。